

県央史談会 2019 年 5 月 12 日 (日) 史跡めぐり

横浜貿易新報社県下名勝史跡45佳撰当選記念碑

玉泉寺〈4位〉・永谷天満宮〈27位〉・日限地藏尊〈44位〉を訪ねる
三殿台遺跡と弘明寺観音も見学

【期 日】 2019年 5 月 12 日 (日)

【集合時間】 午前 7 時 50 分

【集合場所】 小田急線本厚木駅中央改札口

【行 程】 小田急線本厚木駅(8時発各停新宿行乗車・340円)＝相模大野駅(8時16分着・21分発快速江の島行乗車)＝湘南台駅(8時35分着・45分発地下鉄あざみ野行乗車・830円)＝伊勢佐木長者町駅(9時16分着)…徒歩14分…玉泉寺(9時30分着・50分発)…徒歩15分…伊勢佐木長者町駅(10時05分着・10時13分発)＝弘明寺駅(10時20分着)…弘明寺バス停219系統(10時30分発)～三殿台公園バス停(10時36分着)…徒歩4分…三殿台遺跡(10時40分着・団体ガイドあり・昼食・11時40分発)…三殿台公園バス停(11時46分発)～弘明寺バス停(11時54分着)…弘明寺商店街と弘明寺観音…弘明寺駅(13時04分発)＝上永谷駅(13時12分着)…徒歩5分…永谷天満宮(13時30分着・13時55分発)…徒歩5分…上永谷駅前3番バス乗場(市バス14時14分発京急ニュータウン行)～日限山バス停(14時18分着)…徒歩5分…日限地藏尊(14時30分着・50分出発)…徒歩15分…下永谷駅(15時05着・07発)＝湘南台駅(15時23着・32発各停相模大野行・340円)＝相模大野駅(15時58分着・16時06分発＝本厚木駅(16時18分着)

※＝電車 ～バス …徒歩

※今回は市営地下鉄ブルーライン沿線を「市営地下鉄・市営バス共通一日乗車券」(湘南台駅で購入830円)を利用して巡ります。ちなみに個別に払うと1,740円になります。

県央史談会 令和元年5月12日(日) 史跡めぐり

横浜貿易新報社・県下名勝史跡45佳撰当選記念碑
玉泉寺(4位・218,220票)・永谷天満宮(27位・50,729票)
日限地藏尊(44位・35,638票)を訪ねる
三殿台遺跡と弘明寺も見学

【担当】荻田 豊(携帯:090-5412-7190)

【見学箇所と参考資料など】

1. 大慈山瑠璃院玉泉寺 南区中村町1-6-1 高野山真言宗

新編武蔵国風土記稿に「古義真言宗、石川寶生寺の末、大応山瑠璃光院と號す、開山空賢天正十年二月十二日寂す、本尊薬師」とある。

また、「南区の歴史」には、

一天正5年(1577)5月の創立。往時は鎮守八幡宮、第六天社、稻荷社、諏訪社、山王社の別当を兼帯したが、明治維新後神仏は分離した。大正12年9月1日の関東大震災で9間に5間半の本堂、13間に6間半の庫裡、冠木門や宝物の悉くは灰燼に帰した。大正13年11月仮本堂以下を再建した。昭和6年本堂202坪の本建築を行ったが、昭和20年10月29日の横浜大空襲で焼失した。昭和33年5月鉄筋コンクリート造り、瓦葺き、本堂140坪が竣工し落慶式を行った。本堂欄間には薬師浄土を現した十二支と十六大菩薩、両部曼荼羅を繊細莊嚴に望月秀晃氏の鑿跡^{のみ}も美しく彫刻されて嵌め込まれてある。構図の企画は現住職によるものである。本薬師如来立像62cm。伝えによれば、藤原末期の作といわれ、羅災後、新たに本山より付与されたものである。

一とある。

〔註〕

- ① 風土記には「大応山」とあり、明治3年9月の書上げには「大慈山」とある。大応は誤記か、あるいはいつの頃から改称したものか。
- ② 45佳撰当選記念碑は見当らない。寺に聞いてもわからなかった。横

浜大空襲などで喪失か。

2. 三殿台遺跡 磯子区岡村 4-11-20

三殿台遺跡は、縄文・弥生・古墳時代のムラの跡です。遺跡は標高55.1mほどの小高い丘の、約1万㎡の広さにある平坦な場所にあります。丘の周りの斜面には数か所の貝塚が点在し、明治30年代に発見され、「屏風ヶ浦岡村貝塚」の名称で紹介されて注目されるようになりました。その後、隣接する市立岡村小学校の校地拡張予定地となったため、昭和36年夏、多くの研究者や中・高・大学生、市民ら延べ5千人が参加して、遺跡全体の発掘調査が行われました。

調査の結果、縄文時代から古墳時代にわたる約250軒もの竪穴住居跡が見つかりました。特に弥生時代の住居は170軒近くあり、当時のムラとしては大変貴重なものであることがわかりました。そのため、大岡川流域の原始・古代のムラの様子と生活の内容を知ることができる重要遺跡であるとして、昭和41年に国の指定史跡となり、翌年に三殿台考古館が開館して、遺跡と共に公開されています。

〔註〕

- ① 特に、縄文海進に注目してください。
- ② 遺跡は、岡村出身のフォークデュオ・ゆずのCD「すみれ」のジャケットの撮影場所のひとつにもなっています。また、彼らの曲「夏色」に「この長い長い下り坂を～」というフレーズがありますが、これは遺跡近くの「鬼坂」と云われています。

3. 瑞應山 蓮華院 弘明寺 南区弘明寺町267番地

横浜最古の寺 坂東三十三観音第14番札所

今から1300年近く前、元正天皇の養老5年(721)のインドの善無畏(ぜんむい)三蔵法師が渡来、それから17年を経て聖武天皇の天平9年(737)、天下に悪病流行の際、河内和泉の国の僧行基が勅命を奉じて、天下泰平祈願のため全国を巡錫(じゅんしゃく)し、当山の浄域に草庵を造り、一刀三礼(一刀刻む毎に三度礼拝する)の至誠を尽して彫刻祈願されたのが、

現在の御本尊十一面観世音菩薩様です。

嵯峨天皇の弘仁5年(814)には、弘法大師が回国の際、一千座の護摩を焚いて庶民の除災招福を祈願したと言われています。

そして寛徳元年(1044)3月10日、光慧上人により瓦葺き本堂が建立されました。御本尊様の彫刻予想年代とこの本堂建立の年代がほぼ一致することから、この頃が実際の開山と思われます。

鎌倉時代には、「求明寺」と称されていたものを、観音経偈文(かんのんぎょうげもん)の中の「弘誓深如海」(ぐぜいじんによかい)の「弘」の字をとり、「求」を改めて現在の弘明寺となりました。

明和3年(1766)に智光上人により現在の本堂に再建されましたが、光慧上人が建立した時のチョーナ彫りの床板や梁、桁等は再使用されています。

大政奉還によって政権が朝廷に戻り明治時代を迎えると、神道に属さぬ仏教寺院は全国で大弾圧を受け、当山も寺領は御朱印と共に新政府に没収され、明治中期には無住職になって寺伝、寺宝の数々、住職系図までもが紛失する事態となりました。

明治34年(1901)に渡辺寛玉師が住職に就任すると、弘明寺保勝会が設立され、弘明寺の復興と町興しに皆邁進しました。大岡川沿いの桜並木もこの当時植樹されたものです。

明治44年(1911)には、県知事周布公平氏の指示により、仁王門前から鎌倉街道に接する農道が整備され直線の4間道路が完成、これが現在の弘明寺商店街です。

昭和に入ると、4年(1929)に湘南電気鉄道(現京浜急行電鉄)が、寺裏山を貫通して弘明寺駅を完成しました。

昭和51年(1976)には、美松寛海和尚により本堂屋根銅板張り替え工事、客殿改修工事が行われ、続いて美松寛定和尚により「平成の大修築」が実施されました。

平成13年(2001)6月には、京浜急行電鉄株式会社より会社設立100周年の記念事業として、人々の病氣平癒を祈願するために身代地蔵菩薩が境内の奉納されました。(以上HPより)

【文化財など】

① 金剛力士像(仁王像)と仁王門 横浜市指定有形文化財

仁王像は、13世紀後半、早期運慶様を尊守する鎌倉仏師の作。神奈川県下に遺る最古の中世作。平成13年に修理。

仁王門は、江戸時代に再建され、平成14年に改修工事。「瑞應山」の扁額は享保7年(1722)に没し、徳川幕府に仕えた書家佐々木玄竜の書。

② 本 堂

寛徳元年(1044)3月10日、光慧上人により本堂が建立され、開山された。現在の本堂は、明和3年(1766)に智光上人により再建されたもの。光慧上人が建立した時の古材である、チョーナ彫の床板などが使用されている。昭和51年に茅葺きより銅板葺きに改修。

③ 大悲殿の扁額

山岡鉄舟の書。明治初年、弘明寺より金沢八景を回遊した時、書したもの。大悲殿とは、人々の苦しみを共に感じ歩む大悲の観世音菩薩を奉る寺の意。

④ 本尊 十一面観世音菩薩立像

大正4年国宝指定 昭和25年国指定重要文化財

平安時代中期の作。像高181.7cm、ハルニレの木の一本造り。関東に遺る鉦彫りの典型的な作例として有名である。

⑤ 木造 黒漆花瓶(くろうるしけびょう) 横浜市指定有形文化財

室町時代初期の作。御本尊様に常花として供えられたもの。「亜」と言う字の形をしており、樺材を轆轤で挽いて成型した4つの部分を組み立て、黒漆を全面に塗装した。木造で大型の花瓶であり、他に類を見ない珍しさがあることから、当時の弘明寺の伽藍が大規模であったと予想される。

⑥ 梵鐘と鐘楼堂 横浜市指定有形文化財

梵鐘は、鋳銅製の和鐘で江戸時代中期の寛政10年(1798)、阿闍梨秀光が願主となり再々造したもの。江戸神田に住む西村和泉守藤原政平という鋳物師の作で、川崎大師平間寺の梵鐘の同人の作。

4. 永谷天満宮 港南区上永谷 5－1－5

祭 神：

菅原道真朝臣命（すがわらみちざねあそんのみこと）

由 緒：

相模国永谷郷（現在の永谷ほか）座の天満大自在天神の御祭神である菅原道真公は、第60代醍醐天皇の昌泰^{しょうたい}2年（899）、右大臣に任ぜられた。

道真公は更に、昌泰4年正月7日には従二位にも叙せられたが、その月25日に、筑後の太宰府（福岡県）に員外帥（定員外の役人）として左遷されてしまった。

道真公は太宰府に着任した翌年、鏡に向かってご自身の姿を三昧の木像に彫刻した。そしてその内の1昧は秀才淳茂に、1昧は筑紫太宰府安楽寺に、残る1昧は河内国（大阪府）土師村道明寺に安置されたのである。

その後道真公は、延喜3年（903）2月25日、太宰府に於いて59歳で薨^{こう}じている。

さて、5男淳茂公は、はじめ播磨国（兵庫県）に配流となったが、後に関東に下向して永谷郷の下坊に居館を構え、道真公自刻の御尊像を奉祀して朝夕崇拝したことが、永谷天満宮のはじまりであると伝えられている。

その後御神昧は、菅原文時、菅原道長、上杉金吾らに伝わり、明応2年（1493）2月のある夜、相模8ヶ郷の領主、上杉刑部太夫藤原乗国が悪霊を見たことを切っ掛けに、天満宮の社殿を造営し、御神昧を安置し奉った。天文12年（1543）に宅間伊織之亮藤原綱頼が社殿を修造し、天正10年（1582）に宅間規富は宮社を再築している。

明治6年、村社となった永谷天満宮は、明治44年4月30日に神饌幣皇料供進神社に指定された。

《天神様と牛》

天神様（道真公）は、おとなしい白い牛を飼っていました。しかし、大宰府への左遷の発令とともにその牛の行方が不意に分からなくなります。

天神様はその牛の行方を心配していましたが、太宰府へお下りの途中、天神様は道明寺の門前で暗殺されそうになります。この時どこから現わ

れたか刺客を蹴散らして天神様をお救いしたのが、他ならぬその白い牛でした。

また、天神様のご遺言に「お墓のことは牛が知っているから、その牛の赴く所に葬るように」とあったところ、葬儀の牛車は安楽寺で止まったのでそこに葬り申し上げました。（以上HPより）

《新編相模風土記稿に見る天神社と別当貞昌院》

天神社 村の鎮守なり、神軀は(長一寸八分) 縁起に拠るに延喜2年菅公筑紫に在りて宝鏡に向ひ躬^みづから模刻して令子敦茂に与へられし真像なりとぞ、後菅原文時、藤原道長、上杉欽吾等相伝せしを明応2年2月当所の領主藤原乗国(当国八郷を領し永谷郷に居城せしと云ふ)靈夢の告により此地に始て宮社を営み安置すと云ふ、其後天文12年領主宅間伊織綱頼修造を加へ天正10年同氏規富再造せしとなり。末社妙義、白山、妙見、稲荷。

別当貞昌院 天神山と号す、曹洞宗(後山田村徳翁寺末) 旧は上之坊下之坊と号せし。台家の供僧2字在りしが共に廃亡せしを天正10年に至り、其廃跡を開き、当院を起立す、開祖は文龍(天正19年4月16日寂す)と云ふ、本尊は十一面観音(長八寸行基作)。神明宮2、羽黒社、浅間社、以上貞昌院土持。

《貞昌院由緒縁起より抜粋》

前身は、天性院と称した天台宗の宿坊で、上之坊と下之坊という二坊があったが、足利時代に廃絶されたと伝えられる。下之坊には菅原道真の四男、菅秀才淳茂が居住し、道真自刻の尊像を奉祀して朝夕崇拝したのが、現在の天神様である。

5. 日限地藏尊 港南区日限山1-67-30

八木山福德院 高野山真言宗

この日限地藏尊は、慶応2年(1866)7月、在地の飯島勘次郎翁によって開創されたものである。翁は日頃から持病の癩に苦しんでいたが、ある時一人の旅僧に会い、伊豆国三島の蓮馨寺の日限地藏尊を信仰すれば、癩の苦痛は完治すると教えられたことから、同地に赴き、その分身を勧

請し、戸塚区との境で当時「横浜の高野山」と呼ばれた深山幽谷の吉岡山に堂を建て、病苦から逃れることができたという。その後、昭和3年に子孫がお堂を修理増築して、高野山真言宗八木山福德院とした。

この地蔵尊は、山梨と長野に祭られている分身と共に「日本三躰地蔵」の一つと称され、高さ2尺4寸(約80cm)の石仏である。

毎月「4」の付く日が命日(縁日)で、この日に祈願すれば必ず成就するといわれている。縁日には他の日には無い和菓子田邊屋のきび餅が販売される。

〔註〕

① 日限地蔵は日本各地に存在する。「日を限って祈願すると願いが叶えられる」といわれる地蔵菩薩。安土桃山時代、蘆名盛氏へのある夜の夢のお告げで黒川城の堀から見つかったとされる3体の地蔵菩薩像を日限地蔵として祀った西光寺(会津若松市)をきっかけとし松秀寺(東京都港区)から全国へひろがった。

② 裏山に英文の石碑がある。

《笹山城跡》

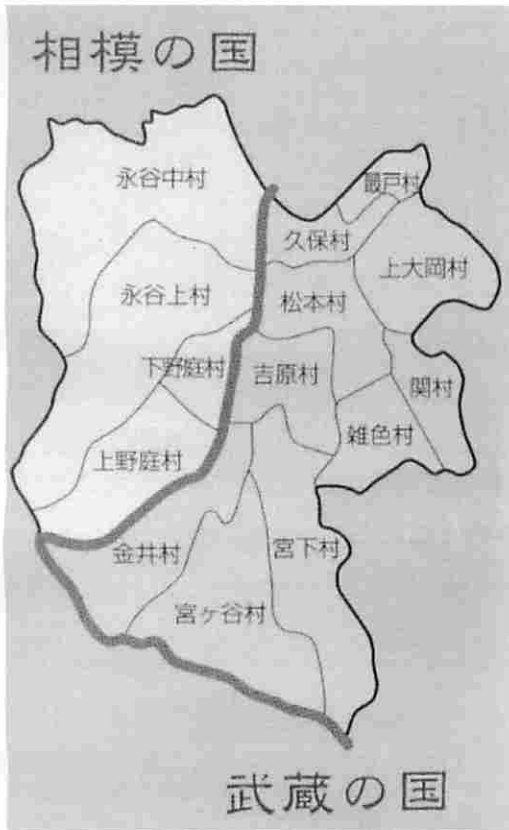
日限地蔵尊の東南に2本の鉄塔が建っている丘がある。この付近一帯が笹山城趾であり、日限地蔵尊の山との間に信号機の設けてある付近は城の「堀切」と推定されている。

この笹山城跡は、大船にあった玉縄城の支砦であったと伝えられるのみで資料に乏しい。ただ宅地造成以前は、鎌倉古道の「早駆けの道」に沿って、土塁が残っていたとも云われ、開発工事中に古井戸や柱穴跡が発見されたと云われているが、具体的な調査報告もない。しかし、周囲を圧する眺望に恵まれており、関城及び天神山双方から千mくらいの同距離にあるところから「伝えの城」(狼煙台)として重要な役割を果たしていたと考えられる。(以上「こうなん道ばた風土記」より)

《參考資料》

港南区を貫く武相国境

江戸時代、現在の港南区の中心には武蔵の国と相模の国の境が南北に走り、両側にいくつかの村がありました。この国境は「武相国境」と呼ばれています。横浜市で武相国境が区の中を走っているのは港南区だけです。



※資料はホームページなどから抜粋していますので、文体が統一されていません。